

JAEF REPORT

平成26年7月5日

年4回発行(1,4,7,10月)

(公財)日本自動車教育振興財団 活動報告

【目次】

- ◆ 第7回理事会・第3回評議員会を開催
- ◆ 平成26年度事業計画説明会を開催
- ◆ 平成26年度JAEF研修会の参加者を募集

- ◆ 38都道府県の研修会(139件)に講師を派遣
- ◆ 平成26年度自動車技術教育用教材提供へ86校から応募

第7回理事会・第3回評議員会を開催

…5月29日、6月12日

財団運営

財団の第7回理事会が5月29日に芝パークホテルにて開催され、平成25年度事業報告・決算及び第3回定時評議員会の開催内容等が承認された。それを受け、6月12日に第3回定時評議員会が経団連会館で開催され、平成25年度事業報告・決算及び評議員の一部選任並びに理事の一部選任が承認された。

財団は平成25年度事業報告において、「社会と自動車のより良い関係を形成するため、高等学校における自動車及び交通に関する教育の支援事業を行った」としている。その主な内容は、「①自動車技術教育については、高等学校における技術教育の維持・向上と更なる普及に取り組んだ。自動車技術教育用教材の継続提供に対する高等学校からの強い要望に応えるため、広域公募を継続すると共に提供教材メニューの充実を図った。また、担当教諭の技術知識や指導能力向上を目的とした支援活動にも取り組み、指導員の派遣や指導教材の提供を適宜実施した。②交通社会教育では、引き続き「交通」「環境」「交通安全」「自動車」の4テーマを中心に取り組んだ。これらに関する国内外の先進事例の調査を重ね、調査報告書や広報誌の特集記事に反映させ教育関係者へ展開した。また、先生方の関心が高い環境や安全に関する先進技術や交通安全等については、先生方を対象とした財団主催研修会の開催や、関係団体からの専門講師の学校派遣を増やすなどして、高等学校における自動車や交通に関する教育を支援した。」としている。

また、平成25年度決算においては、事業展開は維持しつつも原価低減と効率的な支出に組み込み、当初計画よりも収支が僅かながら改善されたことが報告された。

更に、今回は改選期ではないが、評議員及び理事の一部選任が行われた。評議員の一部選任に関しては、3名の評議員（松野下 健氏、小林 洋司氏、佐藤 昌之氏）が退任され、その後任に3名の評議員（五十嵐 善一郎氏、上村 肇氏、高畑 敬信氏）が選任された。また、理事の一部選任に関しては、2名の理事（名尾 良泰氏、及川 良一氏）が退任され、その後任に2名



▲第3回定時評議員会の様子



▲定時評議員会後の懇親会の様子

の理事（永塚 誠一氏、高橋 基之氏）が選任された。今回退任された評議員及び理事の皆様には、財団運営に対するご支援・ご指導に対して、紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

なお、平成25年度の事業報告の概要及び理事・監事・評議員の新名簿は、添付別紙をご参照ください。

INFORMATION

7~9月予定

- 審査委員会開催、平成26年度教材提供校を決定 7月末
- 第93回~97回JAEF研修会を開催 7月29日~9月19日
- 26都道府県の研修会(50件)に講師を派遣予定 7月~9月
- 自動車技術教育・交通社会教育イベントを支援 8月

平成26年度事業計画説明会を開催

…6月13日

普及啓発

財団は、6月13日、平成26年度事業計画説明会（主に自動車・損保・教育関係専門紙などのマスコミ対象）を、日本自動車会館くるまプラザにおいて開催した。

財団より、平成25年度事業報告及び平成26年度事業計画を説明した後、意見交換を行った。参加者からは、「クルマへの関心向上や自動車業界への就職希望向上のためにどのようにしたらいいか」、「財団では自動車技術教育用教材を23年間提供してきたが、これが自動車産業への就職のきっかけになった事例はないのか」など、業界における人材確保問題に関する質問や意見が寄せられ、有意義な会合となった。



▲事業計画説明会の様子

平成26年度JAEF研修会の参加者を募集

…6月～

研修

財団は、平成26年度JAEF研修会の募集について、全国の高等学校約5,800校および過去2年間のJAEF研修会参加者約245名へ案内した。本年度は、下表の通り首都圏、中部圏、近畿圏にて年間5回（夏季休暇期間中の7月・8月に各2回、9月に1回）開催する。

JAEF研修会は、「交通」「環境」「交通安全」などをテーマとして、全国の高校教諭を対象に実施する財団主催の研修会である。平成3年のスタート以来、関係団体・企業のご協力により、各界の専門家による

講演会と施設見学や体験実習などをセットにして行い、参加された先生方から高い評価を得ている。その結果、昨年度までの先生方の参加者累計は約3,460名を数えている。また同研修会は、今年度も文部科学省、開催都県の教育委員会および全国高等学校長協会、全国工業高等学校長協会、全国総合学科高等学校長協会、日本私立中学高等学校連合会、全国公民科・社会科教育研究会の後援・協賛を得ており、財団は全国の高等学校の先生方に積極的な参加を呼びかけている。



▲第89回JAEF研修会・交通安全体験（H25年度）



▲第90回JAEF研修会・自動車博物館見学（H25年度）

【平成26年度JAEF研修会開催計画】

実施回	月日と会場	講演テーマ、見学施設、体験内容	募集人員
第93回	7月29日（火） 東京都港区 日本自動車会館	（講演） 危険予知による交通安全（仮） （講演） 今後の自転車政策（仮）	50名
第94回	7月30日（水） 三重県鈴鹿市 鈴鹿サーキット・交通教育センター	（講演） 交通安全のためのスキルとマインド（仮） （体験） テストコースでの安全運転トレーニング実習	30名
第95回	8月6日（水） 栃木県芳賀郡 ツインリンクもてぎ	（講演） 交通安全のためのスキルとマインド（仮） （体験） テストコースでの安全運転トレーニング実習	40名
第96回	8月20日（水） 大阪市東淀川区 CIVIL研修センター・新大阪東会議室	（講演） 危険予知による交通安全（仮） （講演） 今後の自転車政策（仮）	50名
第97回	9月19日（金） 東京都江東区 有明ワシントンホテル・東京ビッグサイト	（講演） 次世代自動車の現状と課題（仮） （見学） 電気自動車開発技術展（EVEEX）2014	50名

38都道府県の研修会(139件)に講師を派遣

・・・4月～6月

研修

財団は、自動車の整備技術やハイブリッド技術などの「自動車技術」に関する研修メニュー（8種類）および「環境」「交通」「交通安全」に関する一般研修メニュー（6種類）を用意し、高等学校や教育委員会からの要請を受け、専門の講師を派遣している。今年度4月～6月は、38都道府県（139件）の研修会に専門の講師を派遣した（別表参照）。これらの研修会の受講者累計は、59,433名に上った。

139件の内訳は、一般研修会の「交通安全」に関する講師派遣の要請が136件（「危険予知による交通安全」86件、「クルマ・自転車・人がつくる道路と安全」26件、「自転車と交通安全」17件、「交通事故とその責任」7件）、技術研修会は、3件（「ホンダ・

ハイブリッド車について」、「三菱・プラグインハイブリッド車について」、その他「モータースポーツの技術と文化」）であった。「交通安全」に関する講師は、日本自動車連盟支部および日本損害保険協会支部にご協力いただいた。また、技術研修会の講師は、(株)ホンダカーズ広島、三菱自動車工業(株)およびニッサン・モータースポーツ・インターナショナル(株)にご協力をいただいた。

いずれの研修会の参加者からも大変高い評価をいただくことができた。

ご協力をいただいた関係団体・企業ならびに各県の推進協議会の皆様には、紙面をお借りして改めて厚く御礼申し上げます。

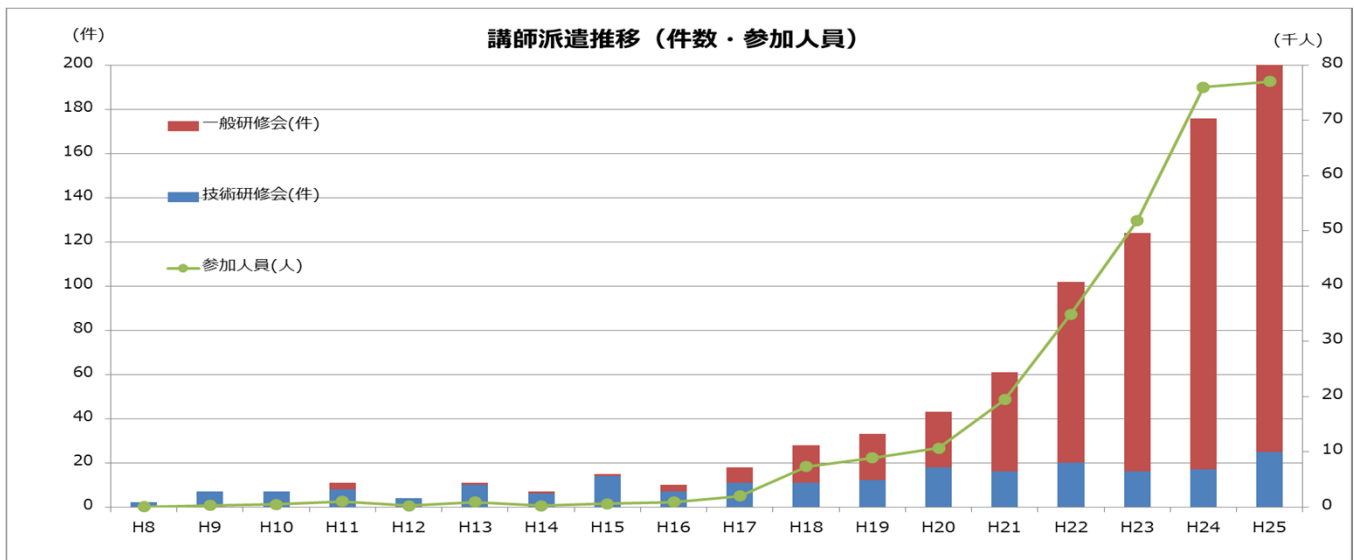


▲広島市立広島工業高等学校での技術講師派遣研修会



▲島根県立江津清和養護学校での交通安全研修会

【講師派遣実績(平成8年度～平成25年度)】



	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
技術研修会(件)	2	7	7	8	4	10	6	14	7	11	11	12	18	16	20	16	17	25
一般研修会(件)	0	0	0	3	0	1	1	1	3	7	17	21	25	45	82	108	159	178
研修会合計(件)	2	7	7	11	4	11	7	15	10	18	28	33	43	61	102	124	176	203
参加人員(人)	41	289	460	1,030	200	850	241	568	861	1,970	7,298	8,868	10,636	19,429	34,875	51,897	76,002	77,058

財団は、技術教育支援事業の一環として、今年度対象14都道府県（下記参照）で自動車技術教育を実施している294校へ5月末に応募要項を送付した。締切の6月30日までに86校から応募があり、応募率は29.3%であった。最終的な提供校および支援内容は、7月31日に開催する審査委員会（木村寛治委員長）で、厳正な審査・選考により決定する予定である。

<応募状況>

今年度の応募校数は86校で、同地域で募集した3年前の71校を15校上回った。応募回数では以前に提供したことのある学校からの応募が78校に対して、初めての応募が6校（7.0%）であった（昨年19.8%・一昨年15%）。今回は再応募が高く、一度活用していただいた高校で教材提供活動が広く認知されたと推測される。教材別では視聴覚教材への応募が減り（前年視聴覚教材希望29%、今年度19.8%）、初級教材・上級教材に希望が移行した。

<教材別応募状況>

各学校は、教材提供メニューの中から第3希望まで選定して応募することとなっているが、第1希望の応募状況を見ると、分解組立用汎用エンジンが昨年同様1位で21校と25%を占める人気教材であった。2位は実習用工具セット（10校）、3位はエンジン実習装置（9校）であった。（昨年は2位が動く掛図教材4サイクル・2サイクル、3位が実習用工具セット）

なお本年度も、自動車技術教育の維持・向上を図るべく、学校の希望も踏まえながら前年からメニューの追加を行い28メニューとし、視聴覚教材から上級教育用教材まで広く提供メニューを用意し対象校へ案内を行った。

学習区分	No.	教材名
視聴覚教材	1	自動車の基礎・電気
	2	自動車機械・基礎
	3	エンジンの作動原理
	4	駆動・制動装置
	5	動力伝達装置
	6	走行装置とかじ取り装置
	7	ディーゼルエンジン燃料装置
	8	自動車の電気・電子技術
	9	自動車の新技術
	10	eTOOLBOXハイブリッド自動車編
	11	動く掛図教材（4サイクル・2サイクル）
初級教材	12	分解組立用エンジン（汎用・126cc）
	13	分解組立用キャブレターエンジン
	14	分解組立用電子制御エンジン（軽自動車）
	15	分解組立用電子制御エンジン（小型車）
	16	実習用工具セット
	17	実習用工具トルクレンチ
	18	急速充電器
	19	低床型手動ジャッキ足踏付 2t
	20	エンジンスタンド(簡易型)
	中級教材	21
22		トランスミッション
23		電子ブロック実験装置
24		燃料電池実験キット
25		ビデオスコープ
上級教材	26	実車（中古車）
	27	エンジン実習装置
	28	故障診断機

*「エンジン実習装置」は前年度まで「エンジンベンチ」と称していた。

【平成26年度公募対象地域と応募校数】

北海道(7)	栃木県(4)	埼玉県(7)	東京都(15)
千葉県(5)	神奈川県(3)	富山県(4)	石川県(5)
福井県(7)	鳥取県(1)	岡山県(10)	島根県(1)
広島県(7)	山口県(10)		

()内の数字は県別の応募校数

計14都道府県 86校

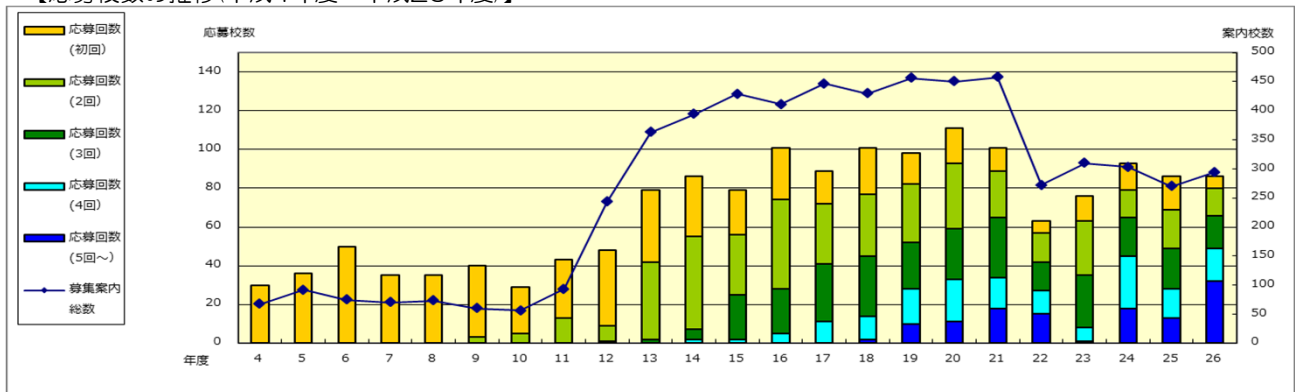


▲分解組立用エンジン



▲エンジン実習装置

【応募校数の推移(平成4年度～平成26年度)】



※平成23年度応募校数には平成22年度公募予定だった宮崎県の5校が含まれる